

2023年度

シラバス

第1学年（第7回生）

学校法人 医療創生大学

葵会仙台看護専門学校

領域	基礎分野		科目	論理学		担当	菅原 宏道			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	70%	課題	30%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
菅原 宏道		大学及び専門学校で講義担当								
到達目標		(1)結論を導くための前提がそろった正しい論証がどのようなものか理解できる。(2)各種の命題どうしの矛盾ないし整合の関係を通じて、確実に言い得ることを判断できる。(3)結論を導くための前提がそろっていない場合の適切な思考法を理解し、事例をあげて適用できる。(4)科学的思考の社会的役割を理解できる。								
授業概要		医療者に必要な思考の方法を、日常的な論理的思考と区別された科学的思考として学び、具体的な事例に適用する方法を身につける。また、論理的な文章を書くための基本とその技術を学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		学んだことを整理して理解し、知識や技術として定着させる復習を重視してほしい。また、前提(理由)と結論(主張)からなる科学的思考としての論理学は広い分野に適用できるため、学んだことを、他の科目の課題や身近な事例に活かすことを勧める。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	論理学の導入		(1)論理学の区分 (2)論理学の用語の導入						講義	
2			主張相互の関係：日常的な論理的思考1						講義	
3			暗黙の前提：日常的な論理的思考2						講義	
4	命題論理学		妥当な推論1：5つの推論規則						講義	
5			妥当な推論2：「ならば」と「または」						講義	
6			妥当な推論3：4つの両刀論法(ディレンマ)						講義	
7	述語論理学		「すべて」と「ある」1：全称命題と特称命題						講義	
8			「すべて」と「ある」2：矛盾と整合						講義	
9	帰納論理学		推論と推測、演繹と帰納：三つの推論的思考						講義	
10			知識成長、改善と論理1：仮説演繹法1						講義	
11			知識成長、改善と論理2：仮説演繹法2						講義	
12			知識成長、改善と論理3：普遍と特殊、理論と事実						講義	
13	科学的思考の社会的役割		問題解決と論理：説明、予測、応用						講義	
14	論理学から論述文へ		論述文(小論文)の基本とその技術						講義	
15	単位認定試験と解説									
教科書		『論理の基礎と活用』、内田詔夫(著)、北樹出版、2012年								
参考文献		『まったくゼロからの論理学』、野矢茂樹(著)、岩波書店、2020年 『「科学的思考」のレッスン』、戸田山和久(著)、NHK出版、2011年								
備考		各回に自作のレジュメとスライドを配付します。								

領域	基礎分野		科目	情報リテラシー I		担当	杉本 くみ子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義・演習	課題レポート	100%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
杉本 くみ子		大学・短大・専門学校・社会人向講習会等での情報関連・PC講義担当 主にVBAによるミニマムアプリ開発						
到達目標		①ルールに則ったドキュメントが作成でき、ファイルが管理できる。 ②情報を整理、考察でき、訴求力あるドキュメントが作成できる。						
授業概要		Word、Excelの基本操作を押さえたドキュメント作成をとおり、適切で効果的な情報の表現を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		授業時間内に課題完成に至らなかった場合は、次回授業までに完成させておくこと。						
回数	授業内容						授業方法	
1	情報社会の現状 (情報の働きと性質・情報の信憑性・発信の責任) 情報セキュリティ (ネットの脅威と対策・個人情報保護・ネット利用のマナー) ワープロ入門 (タッチタイピング・編集・保存)、ファイル管理						講義・演習	
2	文書の種類・文書の構成 基本的文書の作成 (配置・体裁・表)						講義・演習	
3	ビジュアルな文書の作成 (画像・図形・ページ罫線・ページのレイアウト)						講義・演習	
4	基本の表作成 (相対参照・絶対参照・基本の関数・体裁)						講義・演習	
5	知っておきたい関数 (条件処理・端数処理・日付処理・条件集計)						講義・演習	
6	データベース機能 (テーブル・抽出・並べ替え・集計)						講義・演習	
7	グラフの種類と用途 グラフの作成と編集 (棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ・複合グラフ)						講義・演習	
8	アプリケーションの相互活用						講義・演習	
教科書		プリント配布						
参考文献		30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016 (実教出版)						
備考								

領域	基礎分野		科目	看護物理学		担当	佐藤 学	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
佐藤 学		大学院及び専門学校で講義担当						
到達目標		1 身体及び身体ケアに関する物理的根拠を理解する 2 検査・治療・処置に関する物理的根拠を理解する						
授業概要		医療・看護行為には、物理学と関連しているものが多い。単に「方法」としてのケアを学ぶのではなく、物理的思考を身に付けることによって、科学的な視点で看護を考え、原理・原則や根拠を明確にする。						
学習者への期待 (準備学習含む)								
回数	授業内容						授業方法	
1	1 有効数字と基本単位 2 ベクトルとスカラー、力のつりあい 合成・分解						講義	
2	3 力の合成の応用と練習、摩擦						講義	
3	4 てこの原理 (1) モーメントのつりあい (2) 応用とボディメカニクス						講義	
4	5 物の運動、ニュートンの法則と重力						講義	
5	6 遠心力 (1) 作用と反作用						講義	
6	7 脊柱にかかる力・浮力						講義	
7	8 仕事とエネルギー (1) ベルヌーイの法則・血圧						講義	
8	単位認定試験と解説							
教科書		ベッドサイドを科学する・看護に生かす物理学 学習研究社						
参考文献								
備考								

領域	基礎分野		科目	スタートアップセミナー		担当	学校教員(2) 木島 上(4) 佐々木 真由美(10)		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義・演習	課題学習	50%	レポート評価	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
佐々木 真由美		高校での教育実績あり							
木島 上		ホテルで勤務し、接客業をした経験を有す							
到達目標		看護学を主体的に学ぶための基礎的な知識・技術を習得し、看護学生としての教養を理解する。							
授業概要		読む・書く・聴く・述べるなどを実際に行いながら、ノートテイキングや文献検索・読解、レポート作成、グループワークなど今後の学習で知識と教養を身につけていくためのスキルを習得することを学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		「与えられる」学習から、授業内容について、自ら「意味」を読み取り、深め、広く考えられるようになることが重要である。積極的に参加してほしい。							
回数	授業内容					授業方法・担当			
1	(1) 効果的な学習方法について (2) 聴講マナー テキストの読み方 調べ方 (3) ノートテイキング					講義・学校			
2	対人コミュニケーションにおける Hop Step Jump					講義・木島			
3	社会の中で学ぶための接遇マナー					講義・木島			
4	看護学生にとって「読む」こと「書く」ことの基本					講義・佐々木			
5	看護学生にとって「読む」ことの重要性と視点					講義・佐々木			
6	看護学生にとって「書く」ことの重要性と視点					講義・佐々木			
7	「読んで書く」「要約」について					講義・佐々木			
8	レポートの書き方					講義・佐々木			
教科書		看護学生のための「読む力」「書く力」レッスン 日本看護協会出版会							
参考文献		学習技術研究会編 「知のステップ」第4版 くろしお出版							
備考									

領域	基礎分野		科目	心理学		担当	渡邊 兼行			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	80%	授業参加 (提出物含む)	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
渡邊 兼行		大学にて人間学部教授として講義を担当								
到達目標		人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、自己を良く理解する方法を学ぶ。 患者や家族の心理を理解するために、こころの動き、行動、性格、情緒など、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。								
授業概要		心の科学としての心理学を概観する。心理学はとかく誤解されやすい学問であるが、そのような誤解を解き、心と行動への科学的アプローチがどのようなものか、それによってどのような事実が明らかになってきたのかについて、講義と演習を通して学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと予習復習すること。 ・授業で積極的に発言すること。 ・授業で行う作業には積極的に取り込むこと。 								
回数	項目	授業内容							授業方法	
1	心理学とは	心理学について。その考え、歴史、方法について学ぶ。							講義	
2	感覚・知覚	感覚と知覚について、体験的にそのしくみを知る。							講義 演習	
3	感情	感情について、その心理学的理論を学ぶ。							講義	
4	適応	自己・欲求・意志といった点から、適応の心理を学ぶ。							講義	
5	学習	新たな行動を身に付けるしくみである学習について学ぶ。							講義	
6	記憶	記憶の情報処理のしくみについて学ぶ。							講義 演習	
7	認知	認識・表象・思考・言語といった認知のしくみについて学ぶ。							講義 演習	
8	知能	知能について、その測定と理論について学ぶ。							講義 演習	
9	性格	性格について、その測定と理論について学ぶ。							講義 演習	
10	発達	心の発達について、そのさまざまな理論について学ぶ。							講義	
11	集団と社会1	集団について、特に他者との相互作用について学ぶ。							講義 演習	
12	集団と社会2	社会の知覚と社会の影響について学ぶ。							講義 演習	
13	カウンセリング	心の問題に対する心理学的介入の方法と理解を学ぶ。							講義 演習	
14	患者と心理	医療の現場における心理学の役割について考える。							講義 演習	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護講座 基礎分野 心理学 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	基礎分野		科目	社会学		担当	磯崎 匡	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	60%
							出席	20%
							レポート	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
磯崎 匡		大学院にて講義を担当						
到達目標		社会的存在としての人間を理解する。具体的には自己を取り巻く地域・社会・文化がどのように変化し、また、我々の生活にいかなる影響を及ぼしているかを理解する。						
授業概要		本講義の目的は、さまざまな社会問題を題材として人間と社会の関係性について考察することである。講義ではまず、「組織」「民族」「家族」「ジェンダー」「地域社会」をキーワードとして我々が暮らす社会の特徴と問題を明らかにする。次に医療に限定せず広く保健医療を対象として社会的に分析する。最後に「職業集団」による専門職支配の場としての病院が抱える課題について考える。						
学習者への期待 (準備学習含む)		<ul style="list-style-type: none"> ・可能ならば講義中グループワークを行う。 ・毎回講義終了時にレポート提出する。 ・テキストの該当箇所を指示するので予め読んでおくこと。 						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	人間と社会		社会的存在としての人間				講義	
2	組織		集団・組織・ネットワーク、グローバリゼーション ノーマライゼーション				講義	
3	民族 (1)		ナショナリズム				講義	
4	民族 (2)		日本の文化、価値観				講義	
5	民族 (3)		諸外国の民族、価値観				講義	
6	家族 (1)		家族概念と家族形態				講義	
7	家族 (2)		現代家族の諸問題				講義	
8	ジェンダー		セックスとジェンダー、性別役割				講義	
9	地域社会 (1)		コミュニティと地域				講義	
10	地域社会 (2)		ソーシャルサポートと社会関係資本				講義	
11	地域社会 (3)		ヘルスプロモーションにおける地域				講義	
12	保健医療の社会学 (1)		保健医療の社会学の射程				講義	
13	保健医療の社会学 (2)		病と生きる				講義	
14	職業集団		働く個から見た病院、患者の側から見た病院				講義	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 基礎分野 「社会学」 医学書院						
参考文献		講義の際適宜紹介する						
備考		初回の講義の初めに授業のガイダンスを行うので必ず出席すること。						

領域	基礎分野		科目	医療英語 I		担当	佐竹 深雪	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	60%
							小テスト	20%
							出席	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
佐竹 深雪		通訳ガイド・県警通訳センターでの実績あり						
到達目標		コミュニケーションに必要な基礎的な文法項目を知り、医療・看護場面における日常英会話の基礎を理解する。英会話を通じて外国の人々に積極的に関わろうとする態度を身に付ける。						
授業概要		高校までの基本的な文法を確認しながら専門分野での単語や表現等が身につくよう、実践的な学習の場とする。						
学習者への期待 (含む準備学習)		辞書を有効に活用し、しっかりと復習や暗記をすることによって定着に努めてほしい。						
回数	授業内容						授業方法	
1	授業の説明・勉強法・英会話の基本						講義・演習	
2	日常会話の表現						講義・演習	
3	病院内の案内						講義・演習	
4	人体の部位の表現						講義・演習	
5	症状の表現						講義・演習	
6	場面別会話－外来						講義・演習	
7	場面別会話－病棟						講義・演習	
8	単位認定試験と解説							
教科書		クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院						
参考文献		必要に応じて資料を配付						
備考		学生の入学時の能力やその後の理解力により変更の可能性あり。						

領域	基礎分野		科目	医療英語Ⅱ		担当	佐竹 深雪	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前・後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	60%
							小テスト	20%
							出席	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
佐竹 深雪		通訳ガイド・県警通訳センターでの実績あり						
到達目標		基礎的な医療・看護用語を使って臨床場面で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。 英語で書かれた医療看護に関する文献を読解する基礎を学ぶ。						
授業概要		前期の学習の定着をはかりながら、さらにさまざまな場面に対応できるよう実践的な学習を行う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		前期同様、持続的な学習により、レベルアップに努めてほしい。						
回数	授業内容						授業方法	
1	授業の説明・前期学習の確認						講義・演習	
2	患者理解－生活習慣、ニーズ、話題等						講義・演習	
3	病名						講義・演習	
4	検査1						講義・演習	
5	検査2						講義・演習	
6	手術1						講義・演習	
7	手術2						講義・演習	
8	与薬						講義・演習	
9	食事、栄養						講義・演習	
10	カルテ、処方箋1						講義・演習	
11	カルテ、処方箋2						講義・演習	
12	海外文献の読解1						講義・演習	
13	海外文献の読解2						講義・演習	
14	まとめと試験準備						講義・演習	
15	単位認定試験と解説							
教科書		クリスティーンのレベルアップ英会話 医学書院						
参考文献		必要に応じて資料を配付						
備考		前期の進捗状況により、変更の可能性あり。						

領域	基礎分野		科目	人間関係論		担当	木島 上			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	50%	授業態度	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
木島 上		ホテルで勤務し、接客業をした経験を有す								
到達目標		人間関係に関する基礎知識を持ち、人間関係を信頼関係、援助的・対話的關係にするため人間存在について探究し、人間尊重の理念や他者理解と自己理解について理解を深める。								
授業概要		看護実践の一つの基盤である人間関係の質が看護の質にどのように影響するかについて概説する。人間観を育て、関係性を築き、その関係性を日常生活や看護実践に役立てるように、具体的事例や文献、そして自己の体験の振り返りなどを通して授業を進める。								
学習者への期待 (含む準備学習)		人間関係は日常的に展開されているが、その人間関係を学問としてとらえ、知的に体験的に学ぶことを期待する。学習に主体的に取り組み、一人の人間として人間関係のあり方を考えてほしい。自分の考えを明確にし、自分の心の声を聴くための小レポートを課す。またグループワーク（GW）などでは予習が必要な単元を提示する。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	ガイダンス		人間関係論の進め方のガイダンス 自己開示を助ける関係とは						授業 話し合い	
2	人間存在		人間論 人間論を育てるとは						授業 GW	
3	関係の生成		コミュニケーション論						授業	
4	自己理解		自己理解と人間関係						授業 自己対話	
5	他者理解		他者理解と人間関係 健康な高齢者を理解し、その理解を伝える						発表 援助	
6	援助的関係		援助役割と援助的関係 病気の人を理解し援助関係を築くには						授業 GW	
7	カウンセリング		カウンセリングとは、「聞く」と「聴く」の違い						授業 演習	
8	カウンセリング		看護カウンセリング「自己一致」「肯定的配慮」「共感」と看護の関係						授業	
9	関係性の記録		人間関係をプロセスレコードに記録し、理解の視点から分析を試みる						授業 記録訓練	
10	対話的關係		「われーそれ」と「われーなんじ」の関係性						授業 文献学習	
11	体験学習		プロセスレコードの講評 体験学習としての実習を考える						GW	
12	家族と人間関係		家族の人間関係とその変化						授業	
13	家族と人間関係		看護場面での看護師と家族との人間関係						授業 GW	
14	家族と人間関係		家族援助としての看護における人間関係の在り方						事例によるGW	
15	単位認定試験と解説									
教科書										
参考文献										
備考										

領域	基礎分野		科目	地域文化		担当	山口 俊一郎(4) 川口 知子(12)		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	レポート	50%	参加及び発表	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
山口 俊一郎		すずめ踊りのグループの取りまとめ役 地域文化活動にも貢献している							
川口 知子		すずめ踊りグループに参加指導的な役割を担っている							
到達目標		地域生活における”ハレ””ケ”の視点から「祭り」の意義について学ぶ。仙台市における身近な祭りとしての「すずめ踊り」を通し地域に根差す多彩な伝統文化と地域について考えることができる。							
授業概要		「祭り」共同連帯や季節の感謝を体で表現する喜びを踊りを体験を通して学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		積極的に祭りに参加し、季節や神事における人々の思いに触れてほしい。							
回数	授業内容					授業方法・担当			
1	東北の祭り 生活の中における「祭り」の意義					講義・山口			
2	「すずめ踊り」の発祥と、踊りの表現					講義 山口 川口			
3	「すずめ踊り」実演 基本動作 チーム分け					演習・川口			
4	「すずめ踊り」練習					演習・川口			
5	「すずめ踊り」練習					演習・川口			
6	「すずめ踊り」練習					演習・川口			
7	チーム別発表 「自分が暮す地域の祭りについて」レポート作成					演習 山口 川口			
8	チーム別発表 「自分が暮す地域の祭りについて」レポート作成					演習 山口 川口			
教科書		プリント							
参考文献									
備考									

領域	基礎分野		科目	地域共生論		担当	千葉 伸彦		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	レポート課題	50%	活動参加	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
千葉 伸彦		大学講師としてボランティア論担当							
到達目標		ボランティアについての理解を深め、自立した医療者としての社会観を養い、コミュニケーションとホスピタリティを豊かにすることを目標とする。							
授業概要		「援助し、援助される関係」を体験し、「ともに生きる」ボランティア活動を理解する							
学習者への期待 (含む準備学習)		ボランティア活動に主体的に参加し、体験を通して共生社会のあり方を学んでほしい。							
回数	授業内容					授業方法			
1	「ボランティアとは何か」					講義			
2	「ボランティア活動の多様性」ボランティアの種別					講義			
3	災害とボランティア ボランティア支援機関について					講義			
4	ボランティア活動の基礎知識1ボランティアする側とされる側について／安全対策					講義			
5	ボランティア活動の基礎知識2マナーと活動のための留意事項					講義			
6	県内のボランティア活動の情報収集					演習			
7	活動計画書の作成と助言					演習			
8	ボランティア活動の実際					実践活動			
9	ボランティア活動の実際					実践活動			
10	ボランティア活動の実際					実践活動			
11	ボランティア活動の実際					実践活動			
12	ボランティア活動の実際					実践活動			
13	活動報告準備					演習			
14	ボランティア活動体験の振り返り（報告会）					演習			
15	「ボランティア活動」のまとめとしてのレポート作成					演習			
教科書									
参考文献		「新ボランティア学のすすめ」							
備考									

領域	専門基礎分野	科目	人体構造機能学 I		担当	上条 桂樹		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
上条 桂樹		医学部解剖学教室で講義担当						
到達目標		人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。人体の構造と機能 I ではまず人体をつくる基礎である細胞の構造と機能を理解し、その上で構造と機能からみた人体を把握する。さらに骨格・筋系の構造と機能を理解する。						
授業概要		人体の基礎である細胞、細胞分裂。核の構造と機能、組織等について学び、人体の区分、人体部位の名称、方向用言、体液とホメオスタシス等について熟知する。さらに人体各部の骨格がどのように構成され、それぞれがどのように関連を持つか講義する。ついで骨に起始停止する筋について運動機能を関連付けて説明する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		人体構造機能学 I では、慣れない解剖学用語や生理学用語がたくさん出る。慣れるためには、予習はともかく、その日の復習をかかさないと大切である。それを心がけてほしい。						
回数	単元	授業内容				授業方法・担当		
1	1. 解剖生理学総論	1 人体の階層性、人体の器官系				講義		
2		2 人体をつくる細胞の構造				講義		
3		3 細胞構成の物質とエネルギー生成				講義		
4		4 細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体				講義		
5		5 人体を構成する組織				講義		
6		6 構造からみた人体；人体区分、人体部位の名称、 人体の腔所、方向用語				講義		
7		7 機能からみた人体；体液、 内部環境及びホメオスタシス				講義		
8		8 まとめ				講義		
9	2. 運動器	1 骨格・筋系総論				講義		
10		2 体幹の骨格				講義		
11		3 上肢及び下肢の骨格				講義		
12		4 体幹の筋とその働き				講義		
13		5 上肢の筋とその働き				講義		
14		6 下肢の筋とその働き				講義		
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野	科目	人体構造機能学Ⅱ		担当	稲葉 洋平(22) 松木 琢磨(6)				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
稲葉 洋平		災害科学国際研究所にて放射線検査分野での教育実績あり								
松木 琢磨		医師として病院勤務。小児科専門医、腎臓専門医。								
到達目標		解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。人体構造と機能Ⅱでは、呼吸器系、循環器系、泌尿器科の構造と機能について理解する。								
授業概要		人体を構成する器官系、すなわち体内の流通システムとしての、呼吸器系・循環器系・泌尿器系などの構造と機能について学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		人間の体はさまざまな細胞や臓器からできており、それらが協力して働いている。全体を大きく把握することからはじめ、細部に至る方が理解しやすいと思われる。								
回数	単元	授業内容							授業方法	
1	1. 呼吸器系	1 外呼吸と内呼吸、上気道							講義	
2		2 下気道、肺							講義	
3		3 換気、外呼吸							講義	
4		4 血液中のガス運搬、呼吸調節							講義	
5									講義	
6	2. 循環器系	1 血管系総論							講義	
7		2 心臓							講義	
8		3 血管と循環							講義	
9		4 心臓、血管の成長と老化							講義	
10		5 リンパ系							講義	
11	講義									
12	3. 泌尿器系	1 泌尿器系の構成と構造							講義	
13		2 泌尿器系の構造とその機能 3 尿の生成と体液の調整 4 下部尿経路							講義	
14		単元のまとめ							講義	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野	科目	人体構造機能学Ⅲ		担当	山本 由似(12)		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
山本 由似		医学部解剖学教室で講義担当						
到達目標		解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。消化器系、血液、内分泌系の構造と機能を理解する。						
授業概要		消化器系の各器官とその働きについて学び、次に血液を構成する血球と血漿について講義する。さらにホルモン分泌を行なう内分泌系についても理解を深めてゆく。						
学習者への期待 (準備学習含む)		解剖用語や生理学的用語が次々と沢山出て、授業のペースが早くなる。人体構造機能Ⅰの以上に復習に熱心に取り組んで欲しい。講義終了後、まず教科書を繰り返し読み、講義した内容をしっかりと把握することが肝要である。						
回数	単元	授業内容				授業方法・担当		
1	1. 消化器系	1 総論				講義		
2		2 口腔、咽頭、食道の構造と機能				講義		
3		3 胃、小腸、大腸の構造と機能				講義		
4		4 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能				講義		
5		5 腹膜				講義		
6		まとめ				講義		
7	2. 血液	1 血液の組成と機能				講義		
8		2 血球の構成				講義		
9		3 血漿、血液凝固、血液型				講義		
10	3. 内分泌	1 総論、自律神経での調整				講義		
11		2 内分泌での調整 (1) 視床下部、下垂体				講義		
12		3 内分泌での調整 (2) 松果体、甲状腺、副甲状腺(上皮小体)				講義		
13		4 内分泌での調整 (3) 副腎、性腺				講義		
14		まとめ				講義		
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野		科目	人体構造機能学IV		担当	尾形 雅君	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前・後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
尾形 雅君		医学部解剖学教室で講義担当						
到達目標		解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。神経系と皮膚を含めた感覚器の構造と機能を理解する。さらに生殖器系と免疫系について学ぶ。						
授業概要		神経系とそれと連関して機能する感覚器について講義をした後、人体の外部からの異物の侵入に対して、どのような防御や免疫機構ができていくのかについて、さらに種の保存のための生殖器系について講義する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		前期の時と同様に、復習を心がけることが大切である。神経や感覚器模型を使用し、神経系や感覚器の構成や構造を理解することを試みてほしい。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	1. 神経系と感覚器		1 神経系総論				講義	
2			2 中枢神経系の構成と機能 1 脊髄				講義	
3			3 中枢神経系の構成と機能 2 脳				講義	
4			4 脊髄神経と脳神経の構造とその支配領域				講義	
5			5 脳の機能、神経の伝導路				講義	
6			6 自律神経の構造とその機能				講義	
7			7 視覚器の構造とその機能				講義	
8			8 平衡聴覚器の構成とその機能、皮膚構造と感覚				講義	
9	2. 免疫		1 総論、非特異的防御機能				講義	
10			2 特異的防御機能				講義	
11			3 体温とその調整及び発熱の意義				講義	
12	3. 生殖器		1 男性生殖器の構成と構造				講義	
13			2 女性生殖器の構成と機能				講義	
14			3 女性生殖器とその機能的連携、受精と発生				講義	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野		科目	生化学		担当	阿部 知顕	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
阿部 知顕		生物学科 教授としての教育実績あり						
到達目標		基礎分野における生命現象の科学の学習に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造及び、生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。						
授業概要		人々の健康増進のため、高度な医療に対応するため、また、豊かな健康・福祉生活を送るための、生化学の基礎知識を学ぶ。食事と栄養について、体内で消化されてから代謝されていくプロセスについての生化学的知識を習得する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		理解できない点は、テキストを参考にしたり、質問したりすることで解決してほしい。毎回でてくる用語が難しい場合は、予習して調べておくこと。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	生体を構成する物質		代謝とは 代謝、異化と同化、物質代謝とエネルギー				講義	
2			生命維持に必要な栄養素の構造と性質・・・糖質・脂質・たんぱく質 生命維持に必要な栄養素の構造と性質・・・核酸・ビタミンと補酵素				講義	
3							講義	
4							講義	
5	生体内の物質代謝		糖質代謝 1糖質代謝について 2グルコースの分解・糖新生・グリコーゲンの代謝				講義	
6			脂質代謝 1脂質の消化と吸収 2脂肪酸の分解・ケトン体産出と利用 ③脂肪酸・トリグリセリド・コレステロール再合成				講義	
7							講義	
8			タンパク質代謝 1タンパク質の消化と吸収 2アミノ酸からの合成				講義	
9							講義	
10			代謝異常 1骨粗鬆症 2糖尿 ③脂質異常症・高尿酸血症・痛風				講義	
11							講義	
12			遺伝情報とその発現 遺伝情報 1遺伝情報とは 2DNAの損傷と修復				講義	
13	講義							
14	単位認定試験と解説				講義			
15					講義			
教科書		シンプル生化学（南江堂）林、廣野、野口、五十嵐編						
参考文献		コンパクト栄養学（南江堂）脊山、廣野、久保田、寺本編 系統看護講座 専門基礎分野 生化学 医学書院						
備考								

領域	専門基礎分野		科目	微生物学		担当	齋藤 紀行 秋葉 敏夫			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
齋藤 紀行		大学及び専門学校で講義担当 保健環境センターにて勤務実績あり								
秋葉 敏夫										
到達目標		病原微生物の種類とそれぞれの相違を理解して感染症の起こり方を学び、感染症の予防に関する専門的な知識・方法を修得する。								
授業概要		われわれの生活にはさまざまな微生物が生育し、感染症を起こす可能性があることを理解させ、微生物の性質、構造について解説する。感染症の成立には生体側の要因が、強く関係することを免疫学の項で説明し、感染症の予防法を考えさせる。								
学習者への期待 (準備学習含む)		予習・復習をして授業に臨むこと。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	微生物学の基礎		微生物学のあゆみ						講義	
2			微生物学の概要						講義	
3	感染と発症		病原体と生体						講義	
4			感染経路						講義	
5			病原体の病原性						講義	
6	免疫		生体防御のしくみ						講義	
7			獲得免疫						講義	
8			腸管免疫						講義	
9	感染症の予防・治療		滅菌と消毒						講義	
10			化学療法						講義	
11	微生物と感染症		細菌感染症-1						講義	
12			細菌感染症-2						講義	
13			ウイルス感染症						講義	
14			真菌・原虫感染症						講義	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野		科目	栄養学		担当教員	日野 美代子			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	80%	授業態度	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
日野 美代子		管理栄養士として病院勤務								
到達目標		1 栄養素の機能と消化吸収について理解する。 2 各食品における栄養価の特徴と食事バランスガイドについて理解し、バランスのとれた食事の提案ができる。 3 栄養ケア・マネジメントの目的と必要性を理解し、個々の状態に適した栄養補給の選択ができる。 4 各疾患及びライフステージにおける栄養ケア・マネジメントのあり方について理解する。								
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類や生理機能について概説し、どのような食品に含まれているのかを学ぶ。 ・傷病者の病態や栄養状態に基づいた食事・栄養補給法を理解し、各疾患及びライフステージにおける栄養ケアマネジメントを行うための理論と方法を学習する。 								
学習者への期待 (準備学習含む)		教科書や配付資料等用いて予習・復習し、要点をまとめておくこと。								
回数	項目		授業内容						授業方法	
1	授業ガイダンス		栄養学とは						講義	
2	栄養素の消化と吸収		消化器のしくみ 五大栄養素の消化吸収						講義	
3	栄養素の種類と働き (1)		三大栄養素と代謝						講義	
4	栄養素の種類と働き (2)		ビタミン、ミネラル、その他の栄養素						講義	
5	食品に含まれる栄養素		三色食品群、六つの基礎食品群 食事バランスガイド						講義	
6	栄養ケア・マネジメント		栄養ケア・マネジメントとは？ 栄養状態の評価・判定						講義	
7	治療食と栄養補給法		経口栄養法、経腸栄養法、静脈栄養法の 選択と種類について						講義	
8	疾患別食事療法		栄養・代謝疾患						講義	
9	疾患別食事療法		循環器疾患、消化器疾患						講義	
10	疾患別食事療法		腎臓疾患、食物アレルギー						講義	
11	ライフステージと栄養		妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期 成人期、高齢期						講義	
12	摂食嚥下障害と栄養		摂食・嚥下のメカニズムとその障害 摂食・嚥下機能に適した嚥下食の提供基準						講義	
13	栄養管理の実際		栄養ケア・マネジメントの取り組みについて (病院)						講義	
14	栄養指導の実際		入院・外来での栄養相談の取り組みについて (病院)						講義	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院								
参考文献		授業時に必要に応じて推薦する。								
備考										

領域	専門基礎分野	科目	病態治療学 I		担当	日高 輝久		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
日高 輝久		専門学校での教育実績あり						
到達目標		対象を理解し、より良いケアを行うためには、病理学の知識を持つ必要がある。 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。 主な症状・兆候のメカニズムを理解する。						
授業概要		病理学とはどんな学問か。その領域や健康を維持するための生体の回復力及び病気へのなりやすさについて、その概要を学ぶ。また、病理解剖、診断病理学の医療における役割についてや、細胞・組織とその障害。再生と修復。循環器障害、炎症。免疫とアレルギー-代謝異常。老化。先天異常。腫瘍の概略を学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		病理学は医学の基本となる学問の一つである。疾患に関する基礎的な知識の理解、習得に努めてほしい。						
回数	項目	授業内容					授業方法	
1	病理学とは	病気の原因（内因、外因） 1外因：栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物学的因子 2内因：素因、先天異常、遺伝子・染色体異常、免疫異常					講義	
2	代謝障害	代謝障害、細胞・組織とその障害					講義	
3	全身の循環障害	全身の循環障害 1リンパの循環障害 2血液の循環障害 ③高血圧症					講義	
4	炎症	炎症・免疫・膠原病 1炎症、創傷の治療 2生体防御と免疫、T細胞による抗原認識と免疫応答 ③移植と再生医療					講義	
5	アレルギーと自己免疫疾患	アレルギーの分類 1アナフィラキシー 2免疫不全 ③免疫疾患					講義	
6	感染症	感染症と病原体 1感染に対する生体防御のしくみ 2病原体と感染症					講義	
7	腫瘍	腫瘍の定義と分類 1腫瘍の転移と進行度、腫瘍の発生病理 2腫瘍の診断と治療					講義	
8	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学Ⅱ		担当	齋藤 淑子(20) 松木 琢磨(8)			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
齋藤 淑子		血液・循環器専門医師として病院勤務経験を有する								
松木 琢磨		医師として病院勤務。小児科専門医、腎臓専門医。								
到達目標		<p>【呼吸器】呼吸器疾患の基礎的知識を理解する。口腔ケア、呼吸リハビリ、家庭生活の指導等、看護師が呼吸器病の予防と管理に果たす役割が大きいことを理解する。</p> <p>【循環器】循環器系の構造・機能、循環器疾患（高血圧症・虚血性心疾患・不整脈・心不全など）の病態生理・診断・治療について学び、理解を深め、看護援助に活かす。</p> <p>【腎・泌尿器】腎・泌尿器系の構造と機能、各種疾患の病態生理と診断学について学び、看護援助に生かす。</p>								
授業概要		呼吸機能障害、循環機能障害、排泄機能障害について理解する。呼吸機能障害では呼吸器感染症・肺癌・慢性閉塞性肺疾患・呼吸不全等、循環機能障害では虚血性心疾患・不整脈・高血圧・心不全等、排泄機能障害は腎疾患・尿路系疾患・男性生殖器の病態生理、診断、治療について学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		<p>【呼吸器】ただ授業を受身で聞くのではなく、「なぜ?」「自分ならどうするか?」と自分の頭で考えながら積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>【循環器】【腎臓・泌尿器】予習と復習を行い、知識を確実に身につけること。</p>								
回数	単元		授業内容				授業方法			
1	1.呼吸器のしくみとその異常		1 呼吸をするということは：肺の解剖 呼吸器疾患の特殊性				講義			
2			2 肺癌、手術後の看護				講義			
3			3 慢性閉塞性肺疾患、その他の呼吸器疾患				講義			
4							講義			
5			4 肺炎、誤嚥性肺炎（口腔ケア等、看護師の重要性）				講義			
6	2.循環器のしくみとその異常		1 循環器系の構造と機能、高血圧症				講義			
7			2 虚血性心疾患				講義			
8			3 不整脈				講義			
9			4 心筋疾患、弁膜症、血管疾患				講義			
10			5 心不全、先天性心疾患				講義			
11	3.腎臓・泌尿器のしくみとその異常		1 腎臓・泌尿器系の病態・生理と診断学				講義			
12			2 各種腎炎・腎不全・透析				講義			
13			3 腎・泌尿器の腫瘍、前立腺疾患				講義			
14			4 排尿障害・神経因性膀胱				講義			
15	単位認定試験と解説									
教科書		<p>【呼吸器】系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院</p> <p>【循環器】系統看護学講座 成人看護学3 循環器 医学書院</p> <p>【腎臓・泌尿器】系統看護学講座 成人看護学8 腎臓・泌尿器 医学書院</p>								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野	科目	病態治療学Ⅲ		担当	齋藤 淑子(20) 東海林 互(10)				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
齋藤 淑子		血液・循環器専門医師として病院勤務経験を有する								
東海林 互		病院内科医師として勤務								
到達目標		<p>【血液・造血器疾患】血液の生理としくみを理解し、血液の生理と造血器の診断と病候・病態生理、疾患と治療について理解する。</p> <p>【消化器】消化器系の構造、機能について理解し、疾患の病態や基本的な治療法を身に付ける。</p> <p>【内分泌】内分泌機能の生体内での役割につき理解し、内分泌疾患・糖尿病・生活習慣病について学び、治療法や発症予防について理解を深める。</p>								
授業概要		<p>内部環境調節障害、消化・吸収機能障害について理解する。</p> <p>内部環境調節障害では甲状腺機能障害・乳腺疾患・副腎機能障害・糖尿病・痛風等の内分泌・代謝系疾患の病態生理、診断、治療について理解する。消化・吸収機能障害では消化性潰瘍・消化器癌・炎症性疾患・肝硬変・胆石症・イレウス等の病態生理、診断と治療について学ぶ。</p>								
学習者への期待 (準備学習含む)		<p>【消化器】テキストや参考書を繰り返し読み、内容を比較しながら理解を深めてほしい。医学は日進月歩のため新しい知識を得ることが大切である。</p> <p>【内分泌】ホルモンの産生部位とその主な作用などの基本を知る。ホルモン産生分泌や作用の異常による疾患の病態について理解する。国民病である糖尿病の成因メカニズム、治療、合併症、予防やセルフケアと脂質代謝、肥満、メタボリック症候群についても併せて学ぶ。指定の教科書の当該項目につき事前に目を通して予習し、復習も怠らないこと。</p>								
回数	単元	授業内容				授業方法・担当				
1	1. 血液・造血のしくみとその異常	血液の正常性と血液の正常性と破綻				講義・齋藤				
2		造血器系疾患の病態、症状、検査、治療				講義・齋藤				
3	2. 消化・吸収のしくみとその異常	消化器疾患総論、構造と機能、消化器の症状と徴候と病態生理				講義・齋藤				
4		膵外分泌と内分泌。急性膵炎、重症膵炎、慢性膵炎、膵臓癌、膵内分泌腫瘍				講義・齋藤				
5		胆嚢ポリープ、胆石症、胆嚢炎、胆管炎、胆道腫瘍、膵胆管合流異常症				講義・齋藤				
6		急性肝炎、肝炎ウイルス、慢性肝炎、アルコール性肝障害、脂肪肝、NASH、自己免疫性肝炎				講義・齋藤				
7		原発性胆汁性肝硬変、肝硬変、門脈圧亢進症、肝細胞癌、胆管細胞癌				講義・齋藤				
8		食道癌、アカラジア、逆流性食道炎、急性胃粘膜病変、消化性潰瘍、胃癌				講義・齋藤				
9		感染性腸炎、虫垂炎、炎症性腸疾患、大腸癌、腹膜炎、腸閉塞等				講義・齋藤				
10	3. 内分泌・代謝のしくみとその異常	内分泌・代謝学総論、フィードバック機構				講義・東海林				
11		下垂体-副腎系、副腎皮質ホルモンと副作用				講義・東海林				
12		甲状腺及び副甲状腺の機能とその異常				講義・東海林				
13		糖尿病をめぐる諸問題				講義・東海林				
14		脂質異常症と肥満、生活習慣病、痛風				講義・東海林				
15	単位認定試験と解説									
教科書		<p>【血液・造血器】系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 医学書院</p> <p>【消化器】系統看護学講座 成人看護学5 消化器 医学書院</p> <p>【内分泌・代謝】系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院</p>								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学Ⅳ		担当	佐藤 哲朗(14) 遠藤 英徳(2) 川口 奉洋(2) 内田 浩喜(2) 矢澤 由加子(4) 林 光(6)			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
佐藤 哲朗		病院長として勤務。日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄外科指導医								
遠藤 英徳		病院医師として勤務。専門分野：脳卒中の外科治療（脳動脈瘤・脳動静脈奇形・もやもや病）、脳血管内治療、脳腫瘍の外科治療（聴神経腫瘍・髄膜腫）								
川口 奉洋		病院医師として勤務。専門分野：神経内視鏡治療、神経内分泌腫瘍の外科治療、間脳下垂体腫瘍の外科治療 頭蓋底腫瘍の外科治療								
内田 浩喜		病院医師として勤務。専門分野：脳神経外科、脳血管内治療								
矢澤 由加子		病院医師として勤務。専門分野：脳卒中の内科治療								
林 光		病院医師として勤務。								
到達目標		<p>【運動】スポーツ外傷、障害（靭帯、半月板損傷など）の増加、高齢者自立した生活を営むためには運動器（骨、関節、筋、神経など）の健康の重要性が増しており、運動器におこる疾患・治療について理解する。</p> <p>【脳神経】中枢神経の基本的な解剖と生理を学び、外傷や脳血管障害・脳腫瘍などの代表的な脳神経外科疾患とその症状・症候との関係を理解できるようにする。</p> <p>【神経内科】将来、療養の現場でそれぞれの症例において個々の基本的な問題を把握し、それに対する基本的な看護ができる能力を得ることができるとを目標とする。</p>								
授業概要		各科の診断、診察、病態の考え方、治療方法についてを概説する。								
学習者への期待 (準備学習含む)		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。								
回数	単元		授業内容						授業方法・担当	
1	1. 運動器のしくみとその異常		1 運動器疾患総論						講義・佐藤	
2									講義・佐藤	
3			2 外傷性運動器疾患						講義・佐藤	
4									講義・佐藤	
5			3 非外傷運動器疾患						講義・佐藤	
6									講義・佐藤	
7	2. 脳・神経の働きとその異常		1 救急現場での神経症状や画像診断						講義・矢澤	
8									講義・矢澤	
9			2 脳血管障害、その他						講義・遠藤	
10									講義・内田	
11									講義・川口	
12	3. 神経内科		1 変性性神経疾患、脱髄疾患、末梢神経疾患及び認知症等について 特に基本的事項について						講義・林	
13									講義・林	
14									講義・林	
15	単位認定試験と解説									
教科書		<p>【運動器】系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 医学書院</p> <p>【脳神経】系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院</p> <p>【神経内科】系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院</p> <p>臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>臨床外科看護各論 医学書院</p>								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野	科目	病態治療学V		担当	日高 輝久(14) 川村 仁(2) 佐々木 勝忠(2) 齋藤 淑子(4) 稲葉 洋平(4) 菅原 新吾(4)				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験								
日高 輝久		専門学校での教育実績あり								
齋藤 淑子		血液・循環器専門医師として病院勤務経験を有す								
川村 仁		歯学医師として大学病院勤務経験を有す								
佐々木 勝忠		歯科医師として診療所・病院勤務経験を有す								
稲葉 洋平		災害科学国際研究所にて放射線検査分野での教育実績あり								
菅原 新吾		臨床検査技師として大学病院勤務								
到達目標		<p>【皮膚疾患】 日常に遭遇する基本的な皮膚疾患についての治療を学ぶ。</p> <p>【耳鼻咽喉疾患】 耳・鼻・のどの解剖を理解し、関連疾患の病態・治療を学習する。</p> <p>【眼科疾患】 眼科全般への基礎的な理解を得ること。それらを踏まえた患者介護の知識を修得する。</p> <p>【歯・口腔疾患】 歯・口腔の機能を理解し、関連疾患の病態・治療を学習する。</p> <p>【女性生殖器疾患】 女性生殖器に関する基本的知識・病態と治療を学習する。</p> <p>【放射線療法】 放射線の基本的知識を理解し、放射線治療の基本について学ぶ。</p> <p>【臨床検査】 臨床検査の基礎的な知識を得て、病態・治療の理解に生かす。</p>								
授業概要		各科の診断、診察、病態の考え方、治療方法についてを概説する。								
学習者への期待 (準備学習含む)		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。								
回数	単元	授業内容							授業方法・担当	
1	1. 皮膚疾患	1 皮膚の構造・機能、各種皮疹疾患							講義・日高	
2		2 皮膚感染症、熱傷（分類と治療の基本）、褥瘡							講義・日高	
3	2. 耳鼻咽喉疾患	1 耳・鼻・顔面神経痛							講義・日高	
4		2 咽喉、頭頸部腫瘍							講義・日高	
5	3. 眼科疾患	1 眼科疾患							講義・日高	
6		2 検査、治療・処置、手術							講義・日高	
7	4. 歯・口腔疾患	1 歯・口腔疾患、検査・治療・処置							講義・川村	
8		2 口腔ケア							講義・佐々木	
9	6. 女性生殖器	女性生殖器の病態生理構造、診断、検査、治療、予防1							講義・齋藤	
10		女性生殖器の病態生理構造、診断、検査、治療、予防2							講義・齋藤	
11	放射線治療	1 放射線の基本的知識							講義・稲葉	
12		2 放射線治療							講義・稲葉	
13	臨床検査	1 臨床検査の役割							講義・菅原	
14		2 主な臨床検査							講義・菅原	
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護学講座 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 成人看護学15 歯・口腔 医学書院								
参考文献		系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 臨床検査 医学書院								
備考										

領域	専門基礎分野		科目	薬理学		担当	木村 勝彦			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
木村 勝彦		病院薬剤部勤務経験有り。								
到達目標		教育を「学習者の行動（知識・技術・態度）に価値ある変化をもたらすこと」と捉えています。そのため、学習者の到達すべき目標を設定し「学習者の行動に価値ある変化をもたらしたく」思います。まずは、薬という物質がどうやって体内で働いているかを知り、病態への薬の選択ができることを目的とし、最終的には薬物療法への興味とその重要性を理解できた看護師の養成を到達目標とする。								
授業概要		医薬品の作用機序、生体内動態、有効性、安全性や投与方法など、薬理学的知識とその活用を学ぶ。総論では生体に対する薬物の作用の仕組み、薬理効果と副作用、薬物体内動態などを学ぶ。各論では、感染性疾患や免疫系・神経系・内臓系などの疾患に用いられる薬物について種類や特徴あるいはその使い方などを学ぶ。さらにはがん患者に対する化学療法について認識を深める。これらを学ぶことより、看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的基礎知識を習得する。								
学習者への期待 (準備学習含む)		薬理学という大変難解な学問を、今回使用する教科書は非常にわかりやすく解説している。まずは、教科書を必ず読んで受講してほしい。薬の作用機序は講義を聞かないとなかなか理解できない。わかりやすく説明するので、まず、薬理学に親しみを持ち、好きな教科となるよう期待する。								
回数	項目		授業内容					授業方法		
1	総論		薬理学とは。薬理学の役割と目的。 薬物体内動態、薬理作用について説明。					講義		
2			「なぜ薬が効くのか」その仕組みを全体的な視野でわかりやすく説明する。					講義		
3	痛みをとる薬 熱を下げる薬		痛みの原因、解熱鎮痛薬その作用機序。					講義		
4	中枢神経にはたらく薬		向精神薬、鎮静睡眠薬、抗パーキンソン病薬、抗テンカン薬の説明。					講義		
5	末梢神経にはたらく薬 神経にはたらくその他		体性神経と自律神経。筋肉を弛緩させる筋弛緩薬の説明。					講義		
6			交感神経・副交感神経、神経にはたらくその他薬の説明。					講義		
7	オータコイドに関連する薬		抗炎症薬。抗ヒスタミン薬、抗痛風薬、抗リウマチ薬の説明。					講義		
8	心臓・血管にはたらく薬		強心薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、降圧薬、高脂血症薬の説明					講義		
9	血液はたらく薬		貧血治療薬、止血薬、抗凝固薬、抗血小板薬の説明。					講義		
10	呼吸器のはたらく薬		鎮咳薬、去痰薬、気管支喘息薬、結核薬の説明					講義		
11	胃腸にはたらく薬		消化性潰瘍薬、鎮けい薬、鎮吐薬、止瀉薬、瀉下薬の説明。					講義		
12	体内環境を整える薬		ビタミン薬、ホルモン、ホルモンに関わる薬。					講義		
13	病気の原因を抑える薬		抗生物質、合成抗菌剤、抗ウイルス薬、抗菌薬、ワクチンの説明					講義		
14	がんを抑える薬 消毒薬と漢方薬		腫瘍とがんと肉腫、がん細胞、抗がん薬。 滅菌と消毒。漢方の基本の説明。					講義		
15	単位認定試験試験と解説									
教科書		看護テキストNiCE 薬理学								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野		科目	総合医療論		担当	林 光				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法					
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	受講態度	10%	
担当者名		担当講義に関する実務経験									
林 光		病院医師として勤務。									
到達目標		1 医療や看護の原点、現代医療の実像と新しい展開、医療をめぐる今日の議論を学び、現代医療や介護の全体像を把握し、国民の求める医療や期待される医療人像が理解できる。 2 幅広い視野を持ち、新時代に求められる看護師像について自分で考えるきっかけにできる。									
授業概要		看護の「心」、医療と看護の原点、医療の歩みと医療観の変遷、私たちの生活と健康、科学技術の進歩と現代医療の最前線、現代医療の新たな課題、医療を見つめ直す新しい視点、保健・医療・福祉の潮流等について学ぶ。									
学習者への期待 (準備学習含む)		看護職とは医療技術の進歩と新しい社会規範に即応しつつも、人間心理の深い理解に裏打ちされた専門職であることを自覚し、よい看護とは、よい看護師にはどのような資質が必要か等、自らの経験を振り返ることを通じて職業人として成長していけるようにしてほしい。									
回数	項目		授業内容					授業方法			
1	序章 医療コミュニケーションの原点		A 看護の「心」 B 専門職としての医師と看護師 C 援助される者と援助する者 D 病める者の自立への援助					講義			
	第1章 医療と看護の原点		A 命について考える B 健康とは C 病の体験 D 癒しの行為と癒しの知 E チーム医療とマネジメント								
2	第2章 医療の歩みと医療観の変遷		A 現代医学の起源 B わが国の医療がたどってきた道 C 20世紀の医療 D 医療観の移り変わり					講義			
3	第3章 私たちの生活と医療		A もし病気やけがをしたら B 私たちの生活と環境衛生、保健、福祉行政 C 疾病の一次予防と健康増進 D 少子高齢社会と世代間のきずな E 障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 F 心の健康と精神医療					講義			
4	第4章 科学技術の進歩と現代医療の最前線		A 科学技術の進歩と社会・生活の変化 B 現代医学と先端医療技術の最前線					講義			
5	第5章 現代医療の新たな課題		A 薬の副作用と手術の偶発症 B 医原病という考え方とケアの実践 C 先端医療がもたらす倫理上のジレンマ D 生命倫理学と臨床倫理学の展開 E 産業社会の発展と地球環境問題 F 医療不信から「賢い患者へ」 G インフォームドコンセントと医療情報開示					講義			
6	第6章 医療を見つめ直す新しい視点		A 臨床疫学 B 患者の安全 C 医療の管理と評価 D これからの先端医療開発 E 情報化社会と医療					講義			
7	第7章 保健・医療・福祉の潮流		A 医療変革の波と共に始まった21世紀 B 新時代の保健・医療の担い手 C プライマリケアの新たな展開 D 医療における視点 E 保健・医療の国際化 F 地域包括医療システムの新しい課題 G 保健・医療・福祉システムと地域住民の役割 H 地球時代におけるケア					講義			
8	単位認定試験とまとめ										
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院									
参考文献											
備考											

領域	専門分野		科目	看護学概論		担当	太田 久子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・GW	単位認定試験	筆記試験	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
太田 久子		臨床での看護実践、管理業務、看護教員と看護全般にわたる経験を有す						
到達目標		1 看護の本質及び看護の理念が理解できる 2 看護の対象を「生活・社会・環境」との関連から総合的に理解できる 3 健康や障害の概念を知り、看護と関連付けて理解できる 4 看護の機能について専門職業と関連付けて理解できる 5 看護の担うべき社会的使命について考察できる 6 看護における倫理を理解できる						
授業概要		看護の歴史を概観するとともに「人間」「環境」「健康」「看護」の概念をもとに看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学ぶ。また、看護の歴史の変遷を学び、現代医療における看護の役割について学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		看護を学ぶ者の道標として看護概論がある。看護の道を志した動機はさまざまであるが、看護の対象である人間を理解し、看護とはなにか「考え方」を身につけてほしい。また、将来の自分の看護師像を描きつつ、講義に参加してほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	1 看護とは		1看護の本質				講義	
2			2看護の役割と機能				講義	
3			3看護の継続と情報共有				講義	
4	2 看護の対象の理解		1人間の「こころ」と「からだ」				講義	
5			2生涯発達し続ける存在				講義	
6			3人間の「暮らし」の理解				講義	
7	3 国民の健康・生活の全体像の把握		1健康のとらえ方				講義	
8			2国民のライフサイクルと健康生活				講義	
9	4 看護の提供者		1職業としての看護 2看護職の資格と養成				講義	
10			3看護職の就業状況と継続教育				講義	
11			4看護職の養成制度の課題				講義	
12	5 看護における倫理		1医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理				講義	
13			2看護実践における倫理問題への取り組み				講義・GW	
14	6 看護提供のしくみ		1サービスとしての看護 2看護サービスの提供の場				講義	
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院						
参考文献		<ul style="list-style-type: none"> 科学的看護論 著：薄井坦子 日本看護協会出版 看護覚え書き 著：F. ナイチンゲール 訳：湯槇ます他 現代社 看護の基本となるもの 著：V. ヘンダーソン 訳：湯槇ます他 日本看護協会出版社 看護者の基本的責務 監修：手島 恵 日本看護協会出版社 						
備考								

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論 I		担当	鈴木 美佐子 守 花絵
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）80% 受講態度10% 提出物10%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
鈴木 美佐子		看護実践、看護教員の経験を有す					
守 花絵		看護実践、看護教員の経験を有す					
到達目標		1 人間関係を成立し発展させるための技術の基本を理解する。 2 人間の成長を促すための技術の基本を理解する。 3 感染防止の意義を理解し、安全を守る技術を習得する。					
授業概要		看護援助を提供する上で重要な人間関係を形成するためのコミュニケーション技術について学習する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。感染防止の知識を学び、無菌操作・消毒の技術を身に付け安全に援助できるように習得する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		「考え方」「向き合い方」を大事にしている。看護技術を提供する土台となる部分であり、積極的に学習してほしい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	1. コミュニケーション		コミュニケーションの意義、目的、構成要素と成立過程			講義・鈴木	
2			関係構築のためのコミュニケーション			講義・鈴木	
3			効果的なコミュニケーション			講義・鈴木	
4			言葉の障害を持つ人への対応 プロセスレコード			講義・鈴木	
5			演習：看護場面でのコミュニケーション			演習・鈴木	
6	2. 学習支援		看護における学習支援とは 学習支援の実際			講義・鈴木	
7	3. 感染防止の技術		感染防止の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策			講義・守	
8			演習：衛生的手洗い スタンダードプリコーション			演習・守	
9							
10			感染性廃棄物の取り扱い、針刺し防止策、医療施設における感染管理			講義・守	
11			洗浄、消毒、滅菌、無菌操作			講義・守	
12			演習：滅菌手袋装着、無菌操作			演習・守	
13							
14	4. 安全確保の技術		安全確保の基礎知識、誤薬・患者誤認防止 他			講義・守	
15	単位認定試験と解説						
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (基礎看護学②) 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 II (基礎看護学③) 医学書院					
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社					
備考							

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅱ		担当	森田 由紀子 鈴木 美佐子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	前・後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）90% 受講態度・提出物 10% ※実技課題の合格をもって最終評価とする	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
森田 由希子		看護実践、看護教員の経験を有す					
鈴木 美佐子		看護実践、看護教員の経験を有す					
到達目標		1 看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解する。 2 対象の健康状態を評価するための方法を理解し、基本的技術を習得する。					
授業概要		個別的で適切な看護援助を実施するためのフィジカルアセスメントについて学習する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能をイメージしながら、理解してほしい。わからないことは、そのままにせず確認しながら繰り返し練習し身につけてほしい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	ヘルスアセスメント		ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント フィジカルアセスメントに必要な技術			講義・森田	
2			バイタルサインの観察とアセスメント①（体温・脈拍・呼吸）			講義・森田	
3			バイタルサインの観察とアセスメント②（血圧・意識）			講義・森田	
4			演習：体温・脈拍・呼吸の測定と記録・報告の仕方			演習・森田	
5			演習：血圧の測定（触診法・聴診法）と記録・報告の仕方			演習・森田	
6							
7			演習：バイタルサイン測定の実際（臥床患者のバイタルサイン測定）			演習・森田	
8			バイタルサインの記録と報告の実際				
9			呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメント			講義・鈴木	
10			腹部・乳房のフィジカルアセスメント			講義・鈴木	
11			演習：胸腹部のフィジカルイグザミネーション			演習・鈴木	
12			筋・骨格系・神経系のフィジカルアセスメント			講義・鈴木	
13			頭頸部と感覚器・外皮系のフィジカルアセスメント			講義・鈴木	
14			心理・社会状態のアセスメント			講義・鈴木	
15	単位認定試験と実技課題						
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②） 医学書院					
参考文献		フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 呼吸音聴診ガイドブック 医学書院					
備考							

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅲ		担当	渡辺 有希
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）90% 受講態度・提出物 10% ※実技課題の合格をもって最終評価とする	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
渡辺 有希		看護実践、看護教員の経験を有す					
到達目標		1 活動・休息・苦痛の緩和について基礎知識を理解し、基本的援助技術を習得する。 2 環境の意義を理解し、対象にとって安全・安楽な環境を整えるための技術を習得する。					
授業概要		活動・休息、苦痛の緩和に関わる基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。 看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。健康に資する生活行動の看護技術の科学的根拠を理解し、基礎的な実践能力を身に付ける。					
学習者への期待 (含む準備学習)		患者の療養生活に関わる基本的な技術の修得を目的としているため、提示された課題を作成し、積極的に演習に参加してほしい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	1. 活動と休息		基本的活動の援助 ボディメカニクス技術の原理			講義	
2			睡眠・休息の援助			講義	
3			演習：体位変換、ボディメカニクス			演習	
4			移乗・移送の援助			講義	
5			演習：移乗・移送			演習	
6							
7			体位保持、電法、身体ケアを通じてもたらされる安楽			講義	
8			演習：ポジショニング、電法			演習	
9	2. 安全・安楽な療養環境		病床環境調整の目的方法、病床を整える援助の実際 療養環境の意義、病室の環境アセスメントと調整			講義	
10			演習：ベッドメイキング			演習	
11							
12			病床を整える援助の実際・転倒・転落予防			講義	
13			演習：環境整備・臥床患者のシーツ交換			演習	
14							
15	単位認定試験と実技課題						
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院					
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社					
備考							

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅳ		担当	鈴木 美佐子 森田 由紀子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）80% 受講態度10% 提出物10%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
鈴木 美佐子		看護実践、看護教員の経験を有す					
森田 由希子		看護実践、看護教員の経験を有す					
到達目標		清潔と衣生活の意義を理解し、基本的援助技術を習得する。					
授業概要		看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。活動・休息、清潔・衣生活に関わる生活過程を整えるための基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。					
学習者への期待 (含む準備学習)		援助方法を学ぶだけではなく人間の生活行動と関連付けて考えながら、主体的に学習してほしい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・教員	
1	清潔・衣生活		清潔援助の基礎知識 清潔援助の実際1 入浴・シャワー浴			講義・鈴木	
2			清潔援助の実際2 全身清拭			講義・鈴木	
3			衣生活援助の基礎知識 援助の実際（寝衣交換）			講義・鈴木	
4			演習：臥床患者の全身清拭 寝衣交換（ガウンタイプ・セパレートタイプ）			演習・鈴木	
5							
6			清潔援助の実際③ 手浴・足浴			講義・森田	
7			演習：臥床患者の手浴・足浴（デモンストレーション・グループワーク）			演習・森田	
8			演習：臥床患者の手浴・足浴			演習・森田	
9							
10			清潔援助の実際④ 洗髪			講義・森田	
11			演習：臥床患者の洗髪（デモンストレーション・グループワーク）			演習・森田	
12			演習：臥床患者の洗髪			演習・森田	
13							
14			清潔援助の実際⑤ 整容 口腔ケア			講義・森田	
15	単位認定試験と解説						
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院					
参考文献		基礎看護技術 医学書院 看護がみえる メディックメディア 看護技術 講義・演習ノート 上巻 サイオ出版					
備考							

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅴ		担当	渡辺 有希 成田 典子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）80% 受講態度10% 提出物10%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
渡辺 有希		看護実践、看護教員の経験を有す					
成田 典子		看護実践、看護教員の経験を有す					
到達目標		1 健康と栄養の関連について理解し、栄養状態を整えるための基本的援助技術を習得する。 2 排泄の意義を理解し、基本的看護技術を習得する。					
授業概要		看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。食事・排泄に関わる生活過程を整えるための基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。					
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能をイメージしながら、理解してほしい。わからないことはそのままにせず確認しながら繰り返し練習し身につけてほしい。					
回数	単元	授業内容				授業方法・担当	
1	1. 食事	食事援助の基礎知識				講義・成田	
2		食事援助の実際				講義・成田	
3		摂食・嚥下障害 摂食・嚥下訓練 経鼻経管栄養法 非経口的栄養摂取の援助				講義・成田	
4		演習：臥床患者、視覚障害のある患者の食事介助				演習・成田	
5							
6		演習：経管栄養				演習・成田	
7							
8	2. 排泄	排泄の基礎知識				講義・渡辺	
9		自然排尿及び排便を促す援助				講義・渡辺	
10		演習：臥床患者の排泄援助（便器・尿器挿入、陰部洗浄）				演習・渡辺	
11							
12		浣腸、導尿、摘便の基礎知識				講義・渡辺	
13		演習：導尿				演習・渡辺	
14							
15	単位認定試験と解説						
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院					
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社					
備考							

領域	専門分野	科目	基礎看護学援助論VI		担当	守花絵				
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	50%	演習課題	50%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
守花絵		看護実践、看護教員の経験を有す								
到達目標		看護過程の意義を理解し、科学的思考のプロセスを用いて対象のニーズを満たし看護の質を保証するケア提供の技術を習得する。								
授業概要		看護過程の意義や歴史の変遷を学びつつ、問題解決過程としての看護過程を具体的に展開し、看護の思考過程を学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		「考え方」「向き合い方」を大事にしている。看護技術を提供する土台となる部分なので、積極的に学習してほしい。								
回数	単元	授業内容							授業方法	
1	看護過程	看護過程とは 看護過程を展開させる際に基盤になる考え方							講義	
2		アセスメント							講義	
3		看護問題の明確化							講義	
4		看護計画、実施、評価							講義	
5		看護記録							講義	
6		科学的看護論復習 アセスメントの枠組み							講義	
7		事例演習、事例紹介							講義	
8		事例演習							講義	
9		事例演習：脳梗塞疾患患者の看護							演習	
10										
11										
12		事例演習：脳梗塞疾患患者の看護							演習	
13		事例演習：脳梗塞疾患患者の看護							演習	
14										
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (基礎看護学②) 医学書院 江川隆子著：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーヴェルヒロカワ								
参考文献		科学的看護論 著：薄井坦子 日本看護協会出版								
備考										

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅶ		担当	渡辺 有希 日山 寿枝
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	単位認定試験（筆記）80% 受講態度10% 提出物10%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
渡辺 有希		看護実践、看護教員の経験を有す					
日山 寿枝		看護実践、看護教員の経験を有す					
到達目標		1 人間にとって呼吸のもつ意義及び呼吸状態のアセスメントについて習得する。 2 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法の意義と方法について理解する。 3 酸素吸入療法・胸腔ドレナージにおける援助方法を習得する。 4 救急対応の考え方を理解し、心肺蘇生法の技術を修得する。					
授業概要		呼吸・循環を整える援助や救急対応に関する基礎知識を理解し、医療機器やモデルを使用し、援助方法について演習を通し看護の実践力を高める。					
学習者への期待 (含む準備学習)		呼吸・循環を整える援助や救急対応に関する基礎知識と技術を習得してほしい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	1.呼吸・循環を整える技術		治療・処置を受ける対象の看護（1）			講義・日山	
2			治療・処置を受ける対象の看護（2）			講義・日山	
3			演習：酸素吸入、ポンベの取り扱い			演習・日山	
4			演習：口腔・鼻腔吸引			演習・日山	
5	2.救命救急処置技術		救命救急処置の基礎知識 トリアージ			講義・渡辺	
6			演習：心肺蘇生法			演習・渡辺	
7							
8	単位認定試験と解説						
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論（基礎看護学④） 医学書院					
参考文献							
備考							

領域	専門分野		科目	基礎看護学援助論Ⅷ		担当	鈴木 美佐子 日山 寿枝
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）80% 受講態度10% 提出物10%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
鈴木 美佐子		看護実践、看護教員の経験を有す					
日山 寿枝		看護実践、看護教員の経験を有す					
到達目標		1 診療の補助技術である与薬が安全・安楽に行われるための基礎知識、技術を習得する。 2 診察の補助技術である診察・検査が安全・安楽に行われるための基礎知識、技術を習得する。					
授業概要		看護の観察・情報収集について、シュミレーターや器具を用いて測定し、実技の演習を通し看護の実践力を高める。					
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能の知識が必要となる。関連する臓器について、講義までに復習し理解しておくこと。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	1. 薬物療法と看護		与薬の基礎知識と薬の管理 与薬の種類・原則			講義・鈴木	
2			経口与薬、外用薬、誤薬防止			講義・鈴木	
3			筋肉内注射、皮下、皮内注射の方法と実際 輸血・抗がん剤投与時の管理と実際			講義・鈴木	
4			演習：注射器の取り扱い、アンプル、バイアルの薬液準備 皮下・筋肉内注射			演習・鈴木	
5							
6			演習：静脈内点滴の管理（滴下速度調整・側管注他）			演習・鈴木	
7							
8	2. 診察・検査に伴う看護		検体検査（尿、便検査、採血、血糖検査、喀痰検査）			講義・日山	
9			演習：採血			演習・日山	
10							
11			生体情報のモニタリング			講義・日山	
12			心電図検査、心電図モニター			講義・日山	
13			演習：心電図検査			演習・日山	
14			診察・検査・処置の介助技術			講義・日山	
15	単位認定試験と解説						
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院					
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社					
備考							

領域	専門分野		科目	臨床看護総論		担当	森田 由紀子 成田 典子 日山 寿枝
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験（筆記）80% 受講態度10% 提出物10%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
森田 由希子		看護実践、看護教員の経験を有す					
成田 典子		看護実践、看護教員の経験を有す					
日山 寿枝		看護実践、看護教員の経験を有す					
到達目標		1 健康障害の「経過」からみた対象の特徴と看護が理解できる。 2 主要な症状のメカニズムを基盤に、アセスメントの視点や看護援助が理解できる。 3 救急対応の考え方を理解し、心肺蘇生法の技術を習得する。 4 死亡による身体の変化、死後の処置の実際が理解できる。					
授業概要		臨床とは、医療を求める人に対して医療行為を行う場である。臨床看護総論は、臨床看護総論では対象（家族も含む）、健康状態の経過からみた特徴と看護、主要な症状を示す対象者への看護、治療処置別の対象者への看護について学ぶ。					
学習者への期待 (含む準備学習)		健康障害をもつ対象を理解し、健康障害に応じた看護を提供できるよう、知識と技術を修得してほしい。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	1. 健康状態の経過に基づく看護		健康の維持・増進を目指す看護			講義・成田	
2			急性期における看護（手術療法、集中治療を含む）			講義・成田	
3			慢性期における看護（リハビリテーション期も含む）			講義・成田	
4			終末期における看護、看取りの看護			講義・成田	
5	2. 主要症状別看護		呼吸器・循環器に関連する症状を示す対象者への看護			講義・森田	
6			栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護			講義・森田	
7			排泄に関連する症状を示す対象者への看護 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護			講義・森田	
8			認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護			講義・森田	
9			安全・安楽や生体防御に関連する症状を示す対象者への看護			講義・森田	
10	3. 治療処置を受ける対象者への看護		輸液療法を受ける対象者の看護 化学療法を受ける対象者の看護 放射線療法を受ける対象者の看護			講義・日山	
11			手術療法を受ける対象者の看護 集中治療を受ける対象者の看護 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者の看護			講義・日山	
12	創傷管理技術		創傷管理の基礎知識、創傷管理			講義・成田	
13			演習：包帯法			演習・成田	
14	5. 死の看取りの援助		死後の処置			講義・成田	
15	単位認定試験と解説						
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論（基礎看護学④） 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学③） 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院					
参考文献							
備考							

領域	専門分野		科目	地域・在宅看護概論 I		担当	藤原恵里香 伊藤 明美			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	レポート (授業態度)	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験								
藤原 恵里香		保健師の資格を持ち、急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有す								
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有								
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活に及ぼす影響を説明できる。 2. 生活と健康をめぐる社会の動向を捉え、地域におけるケアの必要性について説明できる。 3. 地域・在宅看護の目的と基本理念、関連する概念を理解した上で、看護実践との関連について説明できる。 4. 地域・在宅看護の基本となる倫理について、説明できる。 5. 地域・在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる 6. 地域・在宅看護における家族のアセスメントや家族の介護ならびに意思決定に関する家族支援の方法を説明できる。 								
授業概要		人々の生活の基盤である地域の成り立ちを理解し、そこで展開されている日常生活の実際について学ぶことで、看護の対象を「生活者」として捉え考える。また、地域住民の生活を守るための社会の仕組みについて学び、特に、住民の健康を支える保健医療福祉システムの実際と、その中での看護職の役割について理解を深める。地域で生活するとはどういうことなのか、自分自身の日々の暮らしぶりを改めて振り返りながら、地域で生活する人々を対象にした看護の在り方を学ぶ								
学習者への期待 (準備学習含む)		自分が育ってきた地域や学生生活を過ごしている地域に関心を向け、そこで生活している人々の様々な暮らしぶりに思いをはせながら、地域社会での生活の営みや、それを支える保健医療福祉活動のしくみ、看護職の役割について学ぶ。看護職の視点だけでなく、生活者としての視点とは何かを一緒に考えていきましょう。								
回数	単元		授業内容				授業方法			
1	1. 地域・在宅看護の概念		1. 地域と生活 1) 地域のとらえ方 2) 地域のとらえ方 3) 地域、生活と健康の関係性 4) 地域を「みる」- 実際の街を例に 課題1: 学生が暮らしている地域について振り返る (ワークシート)				講義/DVD (藤原)			
2			1. 地域と生活 課題1をグループで発表し、人々の生活や暮らしている地域などの健康への影響について話し合う 2. 地域・在宅看護の背景 1) 社会的背景と国民の価値観の変容 2) 日本の地域・在宅看護の変遷と今後の課題 ・人口や世帯構造の変化、在宅看護の変遷などと関連させ、在宅ケアが求められるようになった背景を考える。				講義/ グループワーク (藤原)			
3			3. 地域・在宅看護の基盤 1) 地域・在宅看護活動 ～ 7) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 課題: 訪問看護ステーション、地域包括支援センター、保健所や自治体、医療機関の退院支援部門、介護福祉施設などについて調べ、利用する人々の特徴と看護職の役割を話し合う				講義/ グループワーク (藤原)			
4			4. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 1) 自立・自律支援 2) 病状・病態の予測と予防 5. 地域・在宅看護を展開するための基本理念 1) セルフケア理論～9) ヘルスプロモーション 6. 地域・在宅看護における倫理 1) 看護倫理の概要と活用 2) 在宅看護特有の倫理問題 ・看護における倫理4原則を踏まえ、地域・在宅看護における倫理的問題の特徴と人々の尊厳と権利を守る解決法を学ぶ				講義 (藤原)			
5	2. 在宅療養者と家族の支援		1. 地域・在宅看護の対象者 1) 地域・在宅看護の対象と背景 2) 法制度からみた対象者～8) 状態別・状況別対象者 2. 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 1) 療養者・家族側の条件 2) サービス提供者側の条件 ・地域・在宅看護の対象者の特徴について理解し、在宅ケアでは、本人と家族の自己決定が前提であることを学ぶ				講義 (伊藤)			
6			3. 在宅療養の場における家族のとらえ方 1) 家族とは 2) 家族形態に応じた看護 4. 在宅療養者の家族への看護 1) 家族の介護力のアセスメントと調整 ～ 5) レスパイトケア ・家族に関するアセスメントを理解し、家族の強みを生かした介入方法を考える							
7			5. 事例: 療養者と家族へのケアー腹膜透析期の独居療養者 ・ジェノグラムとエコマップを作成したうえで、その家族が在宅看護にどのように関わっているか、話し合う				講義/ (伊藤) グループワーク			
8	単位認定試験と解説									
教科書	ナーシング・グラフィカ ナーシング・グラフィカ		地域・在宅看護論 地域・在宅看護論		地域を支えるケア 在宅療養を支える技術		メディカ出版 メディカ出版			
参考文献	系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座		専門基礎 専門分野 専門分野		公衆衛生 看護学概論 地域・在宅看護論		医学書院 医学書院 医学書院			
備考										

領域	専門分野		科目	地域・在宅看護概論Ⅱ		担当	藤原恵里香 伊藤 明美				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法					
1年次	後期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	筆記試験	90%	授業態度 (レポート)	10%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験									
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有									
藤原 恵里香		保健師の資格を持ち、急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有す									
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムの構成と機能を理解し、その中で重要な役割を担う地域包括支援センターの機能を説明できる。 2. 在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。 3. 病院の病床機能と看護の特徴を踏まえ、地域・施設や転院への療養以降の際の支援の基本について、説明できる 4. ケアマネジメントの目的と機能を理解し、介護保険制度におけるケアマネジメントの提供方法について、説明できる。 5. 介護保険や医療保険、障害者支援などを含む地域・在宅看護に重要な制度の概要について、説明できる。 6. 高齢者の地域生活を支援する制度について説明できる。 									
授業概要		地域・在宅看護の支援には、対象者とその家族に対する個別の看護支援に加え、多職種から構成されるケアチーム、地域全体を、広い視野で把握した看護支援が含まれる。本科目では、社会背景を踏まえ、地域包括ケアシステムの必要性を理解するとともに、チームアプローチの重要性とその中での看護の役割や在宅に必要な公助・共助のサービスを提供する場合のケアマネジメントや地域と繋がりを維持することの重要性を学ぶ。さらに、地域・在宅看護論に必要な法・制度・施策を事例などを活用し主体的に学習をしていく。									
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅看護は、家庭から地域へ広がりを加えて対象を捉えていく地域看護の主要な領域を担う。日々の生活の成り立ち、対象と家族成員の健康状態や地域社会とのつながりの中で理解することが必要となる。看護師国家試験でも重点が置かれている領域でもあり、出題数も増えてきている。自身の生活、社会情勢の変化に関心を持ってほしい。									
回数	項目		授業内容				授業方法				
1	3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護		1. 地域アセスメント 1) 地域アセスメントとその意義 2) 3) 地域アセスメントの活用・方法				講義 (藤原)				
2			2. 地域包括ケアシステム 1) 地域包括ケアシステムとは 2) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 3) 地域包括支援センター								
3			3. 療養の場に意向に伴う看護 1) 医療機関における入退院時の連携 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 1) 行政機関との連携～7) 地域における複合的な連携				講義/ (藤原)				
4. 地域療養を支える制度		5. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント 1) 看護が担うケースマネジメント/ケアマネジメントの概要 ～5) 地域包括ケアと地域ケア会議 6. 事例：地域の課題解決に発展したケース 課題：必要なすべての社会資源を考え、社会資源の内容と頻度を記載したケアプランを作成し、なぜそのように考えたのか話し合う				講義/ (藤原)					
		4	1. 社会資源の活用 1) 在宅療養を支える人～4) 社会資源の活用における看護職の役割				講義 (伊藤)				
		5	2. 医療保険制度 1) 制度の概要としくみ 2) 主な医療 (サービス) 給付 3. 後期高齢者医療制度 1) 制度の概要と仕組み 2) 主な医療 (サービス) 給付								
		6	4. 介護保険制度 1) 制度の概要と仕組み～6) これからの介護保険制度 課題：仙台市ホームページから住民向け介護保険情報を調べ、制度利用申請からサービスを受けるまでのプロセスを調べる 5. 生活保護制度				講義 (伊藤)				
		7	6. 障害者に関連する法律 1) 障害の分類～8) 障害者福祉のこれから 7. 難病法 事例：パーキンソン病患者の在宅復帰に老けた支援 ・難病法、指定難病との関連について理解を深める				講義 (伊藤)				
		8	8. 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 1) 小児慢性特定疾病対策 2) 養育医療 3) 子どもの在宅療養を支える手当 9. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 1) 権利擁護とは～5) オンブズマン制度 10. 高齢者施策 1) 高齢者に対する施策の歴史～高齢者虐待防止法				講義 (伊藤)				
		8	単位認定試験と解説								
教科書		ナーシング・グラフィカ		地域・在宅看護論		地域を支えるケア		メディカ出版			
参考文献		ナーシング・グラフィカ		地域・在宅看護論		在宅療養を支える技術		メディカ出版			
備考		新体系看護全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 / 系統看護学講座 地域・在宅看護論 医学書院									

領域	専門分野		科目	成人看護学概論		担当	内田 祝子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	90%
							レポート	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
内田 祝子		成人領域の看護実践、看護教員の経験を有す						
達成目標		<ol style="list-style-type: none"> 生涯発達の特徴と現代の生活状況から成人の特徴を捉え、ライフスタイルがもたらす成人の健康問題の特徴を理解する。 成人の特性や能力、生活背景を踏まえ、成人の成長・発達・適応の可能性を引き出す看護援助について理解する。 ストレス・危機理論、人間関係理論を活用し、成人の健康レベルに応じた看護援助方法について理解する。 						
授業内容		成人期にある人々を内的・外的環境に適応し生涯発達し続ける存在と捉え、その人生の歩み、社会生活の営みについて学ぶ。また、ライフスタイルと成人の健康生活の相互関連性など成人の看護アプローチの基本となるストレスや危機理論、看護者と患者の相互関係について学び、看護に応用する能力を養う。						
学習者への期待		成人看護学は範囲が広く、基本から積み重ねる学習が必要となる。自身の学習目標を明確にし主体的に学んで欲しい。また、常に「考えること」「自分の考えを言葉にすること」「他者の考えを聞くこと」という姿勢を身につけてほしい。						
回数	単元		授業内容				授業方法	
1	成人期にある人の理解 成人の生活と健康		ガイダンス 成人期にある人の理解-1				講義	
2			成人期にある人の理解-2				講義・演習	
3			成人と生活				講義	
4			成人期にある人の健康-1				講義	
5			成人期にある人の健康-2				講義・演習	
6	成人への看護アプローチの基本		看護アプローチの基本-1				講義	
7			看護アプローチの基本-2				講義・演習	
8	成人の健康レベルに対応した看護		ヘルスプロモーションと看護				講義	
9			健康をおびやかす要因と看護				講義	
10			健康生活の急激な破綻から回復を促す援助				講義	
11			障害がある人の生活とリハビリテーション				講義	
12			人生の最期のときを支える看護				講義・演習	
13			慢性期とともに生きる人を支える看護-1				講義	
14			慢性期とともに生きる人を支える看護-2				講義・演習	
15	単位認定試験 講義まとめ							
教科書		小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院						
参考文献		国民衛生の動向 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論（第2版）学研						
備考								

領域	専門分野		科目	老年看護学概論		担当	桐田 三世	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	筆記試験	70%
							GW評価	10%
							レポート	20%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
桐田 三世		看護実践経験あり						
到達目標		1 高齢者を取り巻く社会の動向が理解できる。 2 高齢者の身体的、心理的、社会的側面の変化が理解できる。 3 高齢社会における保健医療福祉制度や施策が理解できる。 4 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解することができる。						
授業概要		老いがもつ諸側面が、個々の高齢者の生命や生活にどのような問題をもたらしているかを知り老年看護の在り方と高齢者の生活の質の確保に必要なさまざまな保健・医療・福祉制度について紹介していく。						
学習者への期待 (含む準備学習)		老いに対するイメージを客観的に受け止め、「成熟」と「衰退」の2つの側面の意味を知り高齢者の置かれている状況について理解し興味・関心を持ち、主体的に学んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	1章 「老い」を生きるということ	A 老年看護を学ぶ入り口 (2) 老いのイメージ B 「老いる」ということ (1) 加齢と老化				講義		
2		(2) 加齢に伴う身体的側面の変化 (3) 加齢に伴う心理的・社会的側面の変化				講義		
3		C 老いを生きるということ (1) 高齢者の定義 (2) 発達と成熟				講義		
4	2章 「超高齢社会と社会保障」	A 超高齢社会の統計的輪郭 (1) 超高齢社会の現況 (2) 高齢者と家族 (3) 健康状態 (4) 死亡 (5) 暮らし				講義		
5		B 高齢社会における保健医療福祉の動向 (1) 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 ①保健医療福祉制度の変遷				講義		
6		②介護保険制度				講義・演習		
7						講義・演習		
8		③高齢者医療のしくみ (2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化				講義		
9		C 高齢者の権利擁護 (1) ステイグマと差別 (2) 高齢者虐待				講義		
10		(3) 身体拘束				講義		
11		(4) 権利擁護のための制度 ①成年後見制度				講義		
12	高齢者体験	高齢者模擬体験 GW・発表				演習		
13						演習		
14	3章 「老年看護の成立ち」	B 老年看護の役割 C 老年看護における理論・概念の活用				演習		
15	単位認定試験と解説							
教科書		系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院 老年看護技術 医学書院						
参考文献		国民衛生の動向						
備考								

領域	専門分野		科目	精神看護学概論		担当	一ノ瀬 まきの	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	筆記試験	80%
							レポート	10%
							授業態度	10%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
一ノ瀬 まきの		看護実践経験あり						
到達目標		1 精神の健康を理解し、精神看護の目的・対象を理解する。 2 心の健康の概念、心の健康に影響を及ぼす因子を理解する。 3 精神障害の治療と歴史を踏まえ、精神保健医療の現状を理解する。 4 ストレスが心に与える影響を理解する。 5 リエゾン精神看護の活動を理解する。						
授業概要		心の働きと発達、心の健康問題を理解し、心の健康保持・増進と心を病む人を理解するための基礎知識と共に、保健・医療・福祉の視点から社会での生きづらさを感じながら生活している心を病む人に対する看護の基礎を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		精神看護学ではこころの障害とそのケアについて学ぶ。心の病は誰にでも起こり得る身近な病気であることを、授業を通して理解してほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	精神看護学で学ぶこと		精神看護学とは何か、精神障害を持つ人の病の体験と精神看護、「心のケア」と現代社会、精神看護学とその課題				講義	
2	精神保健の考え方		精神の健康とは、心身の健康に及ぼすストレスの影響、心的外傷（トラウマ）と回復、精神障害のとらえ方、				講義	
3	社会の変化とメンタルヘルス		現代社会と精神(心)の健康				講義	
4			家族と精神(心)の健康				講義	
5	心のはたらきと人格の形成		心のはたらき(人間の心の諸活動)				講義	
6			心のしくみと人格の発達(人格と気質、フロイトの精神力動理論、ライフサイクルとアイデンティティ)				講義	
7			よい乳房・わるい乳房(対象関係論)、愛着と心の安全基地(ボウルビーの愛着理論)、自己愛と自己対象体験(コフートの自己心理学)、「甘え」理論				講義	
8			「ジョハリの窓」による自己分析のグループワーク				講義 GW	
9	看護援助の展開		看護援助の基本構造、精神障害を持つ人のセルフケアの援助				講義	
10	社会の中の精神障害		精神障害と治療と歴史、日本における精神医学・精神医療の流れ				講義	
11			精神障害と文化、精神障害と社会学、精神障害と法制度①				講義	
12			精神障害と法制度②、おもな精神保健医療福祉対策とその動向				講義	
13			倫理と人権、ノーマライゼーション 「宇都宮病院」の事例に基づき、人権擁護について考える				講義 GW	
14	医療の場におけるメンタルヘルスと看護		身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス、リエゾン精神看護とその活動、リエゾンナースの活動の実際、看護師のメンタルヘルスへの支援				講義	
15	単位認定試験		単位認定試験と解説					
教科書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
参考文献		新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 精神保健 メジカルフレンド社						
備考								

領域	専門分野	科目	基礎看護学実習 I	担当	森田 由紀子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
1年次	前期	1単位	45時間	1週間	実習	実習目標達成度 100%
授業概要	看護の対象理解と対象が療養する場の理解を深め、対象とのコミュニケーションをとして、医療の場における看護の役割と機能を学ぶ。					
学習者への期待 (含む準備学習)	対象の思いや体験していることに関心を向けながらコミュニケーションを図ってほしい。体調を整え、積極的な姿勢で臨んでほしい。					
実習内容						
<p>I 実習目的</p> <p>病気を持つ対象を理解するとともに、対象の療養環境を知り、対象の療養生活を支える看護の役割と機能について学ぶ。また看護者として必要な態度を養う。</p> <p>II 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を築くために、対象を尊重した関りを持つことができる。 2. 健康を障害されたことにより起こる日常生活上の苦痛や困難などの思いがわかる。 3. 対象の生活の場・治療の場である療養環境や、対象を取り巻く医療チームを構成する職種とその役割がわかる。 4. 看護の実際を知り、看護師として必要な役割について考えることができる。 5. 学生として自ら行動に責任を持ち、看護倫理に基づいた行動がとれる。 <p>III 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院施設で実習を行う。 2. 実習グループを編成し、1病棟に1グループ配置する。 3. 患者1名を受け持ち、対象の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。 4. 看護師の行う看護援助を見学し、看護の役割を学ぶ。 <p>IV 実習時間 原則 8:30 ~ 15:30</p> <p>*詳細は実習要項を参照する</p>						
日程	午前			午後		
病院実習 1日目	病院・病棟オリエンテーション 院内見学(指導者・教員・学生) 受持ち患者への挨拶・コミュニケーション 受け持ち患者の情報収集			受け持ち患者の情報収集 カンファレンス30分 記録整理		
病院実習 2日目	行動計画の発表 看護活動の見学 受持ち患者とのコミュニケーション			看護活動の見学 カンファレンス30分 記録整理		
病院実習 3日目	行動計画の発表 受持ち患者への援助場面の見学 受持ち患者とのコミュニケーション			受持ち患者への援助場面の見学 受持ち患者とのコミュニケーション カンファレンス30分 記録整理		
病院実習 4日目	行動計画の発表 受持ち患者への援助場面の見学 受持ち患者とのコミュニケーション			受持ち患者への終了の挨拶 最終カンファレンス		

領域	専門分野	科目	地域・在宅看護論実習 I			担当	稲邊 照子 伊藤 明美 齊藤 恵里香 小林 透
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法	
1年次	後期	1単位	45時間	1週間	実習	実習目標達成度	100%
授業概要		社会福祉協議会での地域住民による支えあいを支援する取り組みなどの説明や、老人福祉センターでの趣味活動や健康増進目的で参加している方々と触れ合うことで、生活者の視点から健康問題を捉え、様々な健康レベル、発達段階にある個人・家族・集団への支援の特徴を理解する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		地域の多様な場で療養する人々を対象に、必要な治療やケアが地域の中で継続して行われ、命と暮らしの連続性が保たれ、その人らしく生活できるよう支援することが求められている。住み慣れた環境で自分らしく生活していくことを支援するという視点で考えるため、「人々が生活者として地域（コミュニティ）でどのような暮らしを送っているのか」「生活の基盤としての地域（コミュニティ）は人々にとってどのようなものであるか」についての理解を深めてほしい。					
実習内容							
<p>【実習時期】1年次前期</p> <p>【実習期間】5日間（学内2日含む）</p> <p>【実習目的】 地域の暮らしを理解するとともに、人々が支え合って生きることの大切さを理解し、人々の健康づくりを支援する仕組みと場、それらのつながりにおける看護活動について考えることができる</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域で生活する人々の生活環境と健康との関連を考えることができる 2 地域で生活する人々との触れ合いを通して、健康ニーズについて理解することができる 3 集いの場である「いきいきサロン」「子育てサロン」活動を調べ、住民と協力しての「互助」について考える 4 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 仙台市「集いの場」サロン活動の場を中心に、地域の社会資源を調べる 学内1日、街歩き1日 <ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（地区社会福祉協議会）の活動内容やサロン活動の具体的な活動を調べ、人々が支え合って生きることの重要性を学ぶ ・地域の社会資源（医療機関、福祉施設、公共機関など）を調べ、実際に街歩きをし、地域の環境が人々の生活に及ぼす影響を考える 2) 老人福祉センター 実習2日 学内1日 <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターで行われている「趣味の教室」や季節の行事・レクリエーション、健康づくりなどの活動や生活相談や健康相談などの目的を理解する ・利用している方々から話を聞き、地域での生活や健康に対する思いを理解する 							
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術						
参考文献	新体系看護全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 地域・在宅看護論 医学書院						
備考							